

会報 はるかな友

100年の絆

第21号 日本とアルゼンチン

1998. 7. 16 発行 いま新しい時代へ



¡Vamos ARGENTINA!

視 点	アルゼンチンの新しいダイナミズム	1
現地速報	そのときブエノスアイレスは—W杯 対ニッポン戦	4
特別記事	いま、なぜアルゼンチンか？（2）	6
解 説	政治・経済動向速報	7

早稲田大オープンカレッジ	アルゼンチン総合講座 のすすめ	9
柔道用畳128枚、ブエノスアイレス日亞学院へ寄贈		11
平成10年度第42回、(社)日本アルゼンチン協会通常総会		12
さらに盛り上る日ア修好100周年記念行事		13
文化行事 協会会員特別割引つき		16

謹呈・100周年記念品	13	お知らせ	19	人事往来	21
-------------	----	------	----	------	----

W杯 NHK広場で P.13



友好 大使夫妻長田小学校へ P.14

社団法人 日本アルゼンチン協会

発行人 野村秀治 編集人 渡部 透

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

電話 (3501) 4684 FAX (3595) 3932

<http://www.pinos.co.jp/country/j-arugel.htm>

視点

アルゼンチン経済の新しいダイナミズム

小林 晋一郎

94年末のメキシコ通貨危機や97年の香港発の世界株価同時安などを乗り切り、97年には中国に次ぐ8.6%という高い経済成長（日本はマイナス0.7%）を記録したアルゼンチン経済。80年代のアルゼンチンとは全く様変わり、そのカギは「新しいダイナミズムだ」と指摘する、アルゼンチンに長く係ってきた小林さんにその背景をまとめて頂いた。

国営企業の民営化

先ず第一には、アルゼンチンの国営・州営企業の民営化と経済の担い手の企業の変貌である。アルゼンチンでは、チリやメキシコに比して遅れて民営化が開始されたが、その進捗状況はラテンアメリカの中で際立っている。国家の役割を外交、教育、防衛、治安などと明確に定め、経済活動は民間に委ねることとした。収益状況が悪い国営企業を民間に売却して財政負担を軽減しようとか、内容の良い国営企業は民営化しないで残しておこうという発想はない。主要な国営企業はほぼ民営化が終了しており、大きな国営企業で民営化されずに残っているものは—これらも民営化の方針は決定しているが—国立商業銀行のナシオン銀行、3つの原子力発電所、ヤシレタ水力発電所ぐらいである。民営化の中には、鉄道、港湾、道路などコンセッション方式によるインフラ部門の民営化も含まれていて、民間活力によるインフラ整備が進み、アルゼンチンコストの削減に大きく寄与した。

民間企業も経済開放の下で国際競争に晒され経営効率化とリストラに努め、欧米企業やラテンアメリカ域内の企業との戦略的提携により事業基盤の強化や積極的な海外事業展開を行なっている。アルゼンチンの企業はINVESTOR RELATIONやROEを重視するグローバル・スタンダードに沿った企業に変貌している。

メルコスルの進展と金融システムの健全化

第二は、メルコスルの深化と拡大である。メルコスル発足以降、域内貿易が大変活発になり、域内輸出の伸びは96年は12.2%とメルコスルの全世界向けの輸出の伸びの6.6%を上回り、また97年の域内輸出の伸びは19.6%と全世界向け輸出の伸び9.8%を大きく上回っている。域内貿易の伸びと共に域内相互の直接投資が活発化した。ブラジルからアルゼンチンへアルゼンチンからブラジルへ、そして準加盟国のチリからアルゼンチンへの直接投資が活発である。NAFTAと比較して、メルコスルで特徴的な

事は、加盟国の拡大である。96年にメルコスルとチリ、ボリビアとの間で自由貿易協定が調印され、これら二カ国はメルコスルの準加盟国となった。メルコスルとアンデス共同体との間で2000年までに自由貿易圏を発足させることで合意が成立している。メルコスルはEUとの間で枠組み協定を95年12月に調印済で、99年には自由貿易協定を締結する予定とも伝えられている。このような顕著なメルコスルによる地域統合の進展がアルゼンチン経済のダイナミズムを支えている大きな柱である。

第三に指摘すべきは、脆弱であったアルゼンチンの銀行システムが健全化され強化されつつある事実である。メキシコ通貨危機の直撃を受けたアルゼンチンは5ヶ月で全国銀行預金の17%が流出し、アジア通貨不安では株式市場の下落は見られたが、金融危機は発生しなかった。アルゼンチンの銀行システムはグローバル・スタンダードに沿った規制の導入、情報開示の拡大、検査・監督体制の強化、国内金融市場の外資に対する開放で相対的に健全になっている。欧米の銀行は特にスペインの銀行が目立つ、アルゼンチンの金融市场はこれから伸びる成長市場と認識し、積極的に地場銀行の買収を行なっている。

次にアルゼンチン経済の新しいダイナミズムの背景にある次の二つの事を補足したい。

メンタリティーの変化

第一は、アルゼンチン人のメンタリティーの変化である。アルゼンチンとブラジルは国家形成の違いもあり過去の両国関係は必ずしも親密だったとは言えない。どうしてブラジルとの経済統合が急速に進展したのか。メヌム政権の採用した経済安定化政策は国民に大きな負担を強いるものであり、アルゼンチンでは、しばしば「麻酔なしの外科手術」と言われている。高い生活水準に慣れ、文化的生活を求めたがるアルゼンチンの人々がどうしてこのような「麻酔なしの手術」を受け入れたのか。アルゼンチン人のメンタリティーを大きく変えた出来事は、多くのアルゼンチンの識者が指摘しているように、第一にマルビーナス戦争、第二にハイパーインフレである。マルビーナス戦争時に、ヨーロッパを指向していたアルゼンチンを支持したのはラテンアメリカ諸国であった。ハイパーインフレ下では一切の経済活動が不可能となった。この二つの出来事から、アルゼンチンはラテンアメリカとの関係を強化し、インフレ収束と経済の安定化を最優先しようという国民的コンセンサスが形成されたのである。

和解的統合国家へ

第二に補足すべきはアルゼンチンが「分断した国家」から「和解と統合の国家」に変貌しつつあることである。アルゼンチンの歴史は分断した国家の歴史だと言われる。独立当初は連邦主義派とブエノスアイレスを中心としようとする統一派の対立、19世紀のロサス独裁時代にはロサ派と反ロサ派の対立、戦後ではペロン派と反ペロン派の

対立などで、アルゼンチンは「分断された家」の歴史であった。メネム政権は分断された国家に和解と統合を実現し新しい国家建設を目指している。ガウチョの生涯を描いた優れた国民文学の長編叙事詩「マルティン・フィエロ」は、アルゼンチンの人々が折に触れこれを思い出し、聖書のように日常生活に入り込んでいる。この作品の中で、ガウチョのマルティン・フィエロが息子に次のように団結し仲良くすることが大切だと教えている。アルゼンチンの指導者はこの一句を念頭に置いて新しい国家作りをしているのではないだろうか。

「兄弟仲良くすることは
これは大事なおきてです
ほんとに、組んでいる事だ

どんな時でも、場合でも
内輪同士でもめあうと
外のに食われてしまします」

(東銀リサーチインターナショナル 研究理事)

現地速報

そのときブエノスアイレスは—

VAMOS ! ARGENTINA [地球の反対側の道頓堀]

小山 剛

W杯日本・アルゼンチン戦。テレビの視聴率は60.3%と史上最高。6月14日のよる、まさに日本列島は沸いた。そのとき本場のブエノスアイレスは、どんな様子だったのか、亜国三菱商事の小山さんからのなまなましいレポートをお届けする。

街中が歓声とクラクション

98年6月14日（日）アルゼンチン時間午前10時、街は歓声と車のクラクションの音に包まれた。アルゼンチン先制点の瞬間である。

噂には聞いていたが、これ程までの大騒ぎになるものとは。日本もW杯は大ブームらしいが、それは初出場（しかも劇的に予選を勝抜いて）故のブームであって、アルゼンチンは常連かつ一優勝候補にも関わらず、初出場の弱小国相手の先制点でさえ町中が大騒ぎなのである。

3つのタイプ

アルゼンチンのサッカーファンはそれこそ老若男女問わず幅広いが、私が見るに以下3つのタイプに大別される。

タイプ 1 とにかくアルゼンチンが勝てばよいというタイプ。

対戦国は皆が“敵”であり、日本人に対する接し方も厳しい。

タイプ 2 評論家タイプ。

アルゼンチンが勝つに越したことはないが、その前に色々と分

析、批判をする傾向を持つ。日本代表についての分析も怠らない。

タイプ 3 監督タイプ

自身がパサレラ監督になりきっているタイプ。戦術等細かい点をコメントするなど、タイプ2と似た部分があるが、圧倒的に違うのは主観が強いこと。

と、色々なタイプのファンがいるが、試合が始まるとたちまち只のファンになり、また試合後はコアなファンを中心に国旗を振り、犬（！）や子供にも代表のユニホームを着せての大名行列となってしまうのである。

試合後恐る恐る近くの広場まで足を伸ばしてみたが、とても素面では仲間に入ることができない程ボルテージが上り、群れの中に入り込むに至らなかった。（後で思えば賢明な判断だったのかもしれない）。

どこかの騒ぎに似て

この騒ぎを見て、何かノスタルジーを感じずにはいられなかった。そう阪神が優勝した時の大阪の騒ぎに似ているのである。

残念ながらラプラタ河は広すぎて橋がない。もし橋があれば阪神ファン同様、ラプラタ河に飛び込むファンが後を絶たないであろうし、仮にバティステウタに似た人形が街角に立っていれば、その人形は神と崇められ、河に投げ込まれていただろう。（当時カーネル サンダースがバースとして崇められ、道頓堀に投げ込まれたように）

W杯が4年に一度のお祭りである事はとかく日常生活にも影響を及ぼす。試合の前日、土曜日の夜だというのに、翌日のW杯中継に備え帰宅する連中が多く、レストランが商売にならなかつた話、電化製品を分割で買ってもアルゼンチンが優勝した場合は支払残を免除する電気屋。ブラジルなど近隣諸国に比べればまだ穏やかなのかもしれないが、アルゼンチンが今後勝ち進んでいく毎にもっと過激な話しが出てくるだろう。

バーモス・アルヘンティーナ

現に日本同様格下のジャマイカ戦、消化試合となったクロアチア戦でもボルテージは下がるどころか、上がる一方。まさにこれぞ南米といった雰囲気である。

こうなると是非ともアルゼンチンに優勝してもらい、町全体が興奮に包まれる瞬間を体感してみたくなる。試合のある日に現地の人と一緒にになって「VAMOS ! ARGENTINA (それ行けアルゼンチン)」と応援せずにはいられない。

（亜国三菱商事会社駐在員）

特別記事

いま、なぜアルゼンチンか？（2） 研究者泣かせの「嬉しい」変化

松 下 洋

私がクージョ大学の奨学生を得て、はじめてアルゼンチンの地を踏んだのは、今から32年前のことだった。「あるぜんちな丸」で横浜港を出港し、ブエノスアイレスからは夜行列車に乗り継ぎ、目的地のメントサ市についたのは、日本を出てから丁度50日のことだった。これだけの長旅だったせいか、何か別世界にたどり着いたような気分だったが、たしかに当時のアルゼンチンは、文化面は言うに及ばず、政治や経済の面でも日本とは全く異質な世界だった。政治的には民主主義体制が崩壊して、オングニア将軍による軍政が始まった直後だったし、経済面では高度成長を謳歌していた日本とは対照的に、停滞とインフレが同居した、いわゆるstagflationの真っ最中にあった。そんな経済と政治状況にもかかわらず、国民の生活が一般に豊かなには一驚を禁じ得なかったが、そんなアルゼンチンを見て、私が抱いた疑問は、国が豊かなになぜ政治が不安定性にならざるを得ないのかということだった。私は、その答えを強力な労働運動の存在と行き過ぎた民族主義に求め、このふたつを運動内に取りこんだペロニズムの分析に一貫して当たってきたのだった。

ところが83年の民政移管を契機に80～90年代にアルゼンチンは劇的な変化を遂げる。軍部のクーデターの可能性はほとんどなくなり、経済面でも国の宿弊だったインフレがほぼ完全に克服され、ここ2、3年は経済成長も目覚ましい。こうした変化は、アルゼンチンを第二の祖国と考える私には嬉しい限りなのだが、研究者としては、頭を抱える問題もある。というのは、政治的不安定はほぼ解消して民主主義がほぼ定着したことにより、政治的不安定という以前の大問題は解消したし、労働運動は昔日の面影はなくなり、民族主義も力を失ってしまった。この結果、ペロニズムは健在でも、この二点を軸にペロニズムを捉えることの意義が著しく低下してしまったのである。では、今日の政治やペロニズムを見る上でそれに代わるどんな新しい枠組みがありうるのであろうか？残念ながら、私自身はこの問に対して納得ゆく答えをまだ見出せないでいるのだが、多くの研究者にとっても同様のようである。

それにしても、32年前とは逆に、アルゼンチンが高度成長を遂げつつあるまさにその時に、日本が未曾有の経済停滞に突入しつつあるとはなんという巡り合わせであろうか。実際、ここ30年間を振り返ってみると、両国が共に高い成長を遂げたと言う時期はなかったように思われるが、そうした歴史を踏まえた時、21世紀に向けての共栄のシナリオはどうしたら描けるのであろうか。こんなことに頭を悩ませながら、交流史の編集に当たっている今日このごろである。

(神戸大学教授、日ア交流史編集委員会委員長)

解 説

アルゼンチン政治・経済動向速報

小 林 晋一郎

- 4月の輸出は23億200万ドル、輸入は27億1100万ドルで貿易収支は4億900万ドルの赤字となった。本年1~4月の累計で見ると、輸出76億8300万ドル（前年同期比5%の減少）、輸入101億6800万ドル（13%の増加）で貿易収支は24億8500万ドルの赤字（172%の増大）、また過去12カ月の赤字は64億500万ドルとなった。1~4月の輸出地域はメルコスル（32%）、EU（18%）、NAFTA（11%）、他方、輸入地域はEU（27%）、メルコスル（25%）、NAFTA（24%）である。
- ブラジルのイタウ銀行は、かねてからアルゼンチンで積極的な業務展開を行なってきたが、アルゼンチンの中堅銀行であるブエンアイレ銀行を2億2500万ドルで買収、この結果、店舗数92、預金量4億5600万ドルの大規模な銀行が誕生することになった。経営難に陥っていたパトリシオ銀行はマヨ銀行が救済合併、また、経営破綻したクレディット・プロビンシアル銀行（本店、ブエノス・アイレス州ラプラタ市）は受け皿の新銀行メルコバンクが預金を引き継いだ。
- カバロ前経済大臣からマフィアと指摘されたり、カベサス（週刊誌「ノティシアス」のカメラマン）殺害事件で疑惑を持たれていたアラブ系の実業家ヤプランは警察が逮捕に向かっている時、エントレリオ州の別荘で自殺した。ヤプランは昨年12月にエクセル投資グループに売却するまでは、郵便会社OCASAなど運輸事業を手広く営んでいた。自殺の報道は政界、経済界に大きな衝撃を与えた。
- フランスの自動車組み立てメーカー、プジョーはアルゼンチンでプジョー車をライセンス生産しているセベル社への出資比率を従来の15%から50%へ引き上げ経営権を完全に掌握、メルコスル戦略に本腰を入れることになった。
- 5月、ゴンサレス労働大臣はIMFを訪問、労働法改正に関し説明した。これは、4月にIMFがアルゼンチンを訪問した際に、ゴンサレス大臣の作成した労働法改正案が不十分であると指摘されたことを受けて行なわれたものである。同大臣は段階的に包括労働契約の見直しを行うことを提案し、受け入れられた。
- エルニーニョの影響による異常気象で4月中旬からの大雨のため北部のパラナ州、南部のチュブ州で大きな洪水が発生、約13万人が被害を受けたと報道されている。

政府はこれに対処するため世界銀行と米州開発銀行からの融資13億ドル、政府予算から5億ドル、合計18億ドルの緊急支援資金を準備した。

- 4月、スタンダバイに係る条件遵守状況を調査するためIMFのミッションがアルゼンチンを訪問した。同ミッションは、貿易赤字と経常赤字の拡大傾向に懸念を表明、メネム大統領が積極的に推進している道路建設の延期など公共投資を抑制し過熱気味の経済にブレーキをかける必要がある旨のコメントを発表した。現状のままでは、98年は貿易赤字80億ドル、GDP比4.75%の経常収支赤字が見込まれるので、危機回避の予防的措置として、預金準備率の引き上げ、歳出の抑制などの内需抑制策が必要との考えを明らかにした。また、労働法の改革案は労働市場の流動化を高めるには不十分であると指摘した。アルゼンチン政府は輸入の増大は資本財の輸入によるものであり将来の国際競争強化に繋がるもので貿易赤字は問題ないと反論した。フェルナンデス経済大臣はワシントンにIMFを訪問、アルゼンチンの現状を説明した。
- 4月、ペロン党からの次期大統領候補に有力視されているオルテガ元ツクマン州知事が大統領府社会開発庁長官に任命された。オルテガは元歌手・映画俳優で清潔な政治家として人気が高く、メネム大統領の信望が厚い。オルテガ長官は就任直後から、今世紀最大の規模といわれる洪水の被害地を水につかりながら視察する姿が報道された。この任命はメネム大統領と対立するデュアルデ現ブエノスアイレス州知事に対する搖さぶりと見られる。
- 4月、教員の賃上げを要求するデモが全国レベルで行なわれた。教育大臣は教員賃上げの財源として自動車税を導入する法案を国会に提出したが、自動車業界やIMFがこの法案に反対を表明している。
- 7月20日からアルゼンチン航空がブエノスアイレスからハバナに直行便を運行することを発表した。アルゼンチンとキューバの外交関係はキューバの民主化、人権問題から必ずしも親密とは云えないが、これはキューバとの新しい外交関係の時代の到来と評価される。
- アルゼンチンで1世紀以上の歴史を持つ財閥ブンゲ・グループはコモディティーに専念し、食品加工分野から撤退するという大胆な計画を発表した。この方針に従い、モリーノス・リオ・デ・ラプラタ社（アルゼンチン）、サンティシマ・アリメントス社（ブラジル）、グラモベン社（ベネズエラ）、ブンゲ・オーストラリア社が売却されることとなった。売却予定の4社の年間売上は40億ドルである。

- 5月、銀行協会主催のコンベンションに参加するためにブエノスアイレスを訪問したMITのクルーグマン教授は、「アジアの通貨危機は固定相場制の下での銀行危機であり、従って、アルゼンチンは銀行システムに注意を払い、短期的にはコンバーティビリティー・プランを放棄すべきではない」と語った。
- アルゼンチン政府はまだ政府保有となっている石油会社YPF株を全て売却する方針を固めた。売却はロンドン、ニューヨーク、東京およびブエノスアイレスで行なわれる。売却予定の株はYPF全株の20.3%であり時価で24億5000万ドルである。

(東銀リサーチ・インターナショナル 研究理事)

「アルゼンチン総合講座」のすすめ 早稲田大学オープンカレッジの寄付講座

日ア修好100周年記念事業の一環として、早稲田大学エクステンションセンター、アルゼンチン大使館、100周年記念事業組織委員会および当協会の共催で、9月12日から12月5日まで土曜日の13:00~14:30に、各界の権威によるアルゼンチン総合講座が開催されます。

この史上初の試みについては、すでに会員各位に早稲田大学センターから講座の案内が郵送されています。このたびは共催団体のご好意により会員各位の受講は「無料招待」になりましたので、奮って参加し、アルゼンチン全般の知識をさらに深化されるようお薦めします。

回数	日 程	テ ー マ	講 師 名 (肩書)
1	9月12日 (土)	アルゼンチンの歴史と概観	J. サンチス・ムニヨス大使
2	9月19日 (土)	マルビーナス (フォークランド) 戦争秘話	藤本芳男 元駐ア日本大使
3	9月26日 (土)	100年の盟友ー日本海海戦から ワールドカップまで	野村秀治 (社)日ア協会専務理事
4	10月 3日 (土)	ペロンとエビータ	松下 洋 神戸大学教授
5	10月17日 (土)	経済復活とメルコスール	小林晋一郎 東銀リサーチ インナショナル研究理事
6	10月24日 (土)	残された金鉱と肥沃なバンバ	F. ラス 経済担当参事官
7	11月 7日 (土)	赤ワインの秘密と生活文化	マルタ松下 同志社大学教授
8	11月14日 (土)	アルゼンチンの女性史	畠 恵子 早稲田大学教授
9	11月21日 (土)	アルゼンチンの文学	野谷文昭 立教大学教授
10	12月 5日 (土)	フォルクローレとタンゴ —アルゼンチンの愛と魂	帆足まり子 日本ラテンアメリカ 文化交流協会会长

・応募要領は次のとおりです。

- 1 申込みは下記の会員招待受講証・申込書に記入し、当協会までFAX又は郵送で申込んでください。法人会員はコピーをとり、各自、会社名、所属部署などを明記のうえお申込みください。申込み締切は8月21日（金）必着です。
- 2 開講までに「会員招待受講証」をお送りします。受講の際は必ず受講証を提示のうえ出欠を確認して下さい。
- 3 修了式は12月5日（土）15:00より修了証授与（有資格者のみ）、ピアノ・ミニコンサート、パーティを予定しています。

..... ×

FAX申込先：03-3595-3932

1998年 月 日

早稲田大学エクステンションセンター 日本アルゼンチン修好100周年記念
アルゼンチン総合講座 会員招待受講証・申込み書

フリガナ 氏 名	明・大・昭 年 月 日 生 男・女			
自宅住所	〒 -			
勤務先・学校名	TEL FAX 所属 役職			
住 所	〒 - TEL FAX			
会員資格	記念事業組織委員会会員、(社)日本アルゼンチン協会員(法人、個人、賛助)			

柔道用畳128枚、ブエノスアイレス日亞学院へ寄贈

ブエノスアイレス日亞学院の神成先生の斡旋で、(財)講道館のご好意により、柔道用畳128枚(新品)をブエノスアイレス日亞学院に対し寄贈された。

同学院より当協会に寄贈畳の国内輸送、通関手続、船積輸送について便宜供与方依頼があり、大阪商船三井船舶㈱のネドロイド・リオ・グランデ号に積込み5月10日横浜を出港した。海上運賃は大阪商船三井船舶㈱の特別の計らいで無料となった。同号は6月18日ブエノスアイレス港に入港し、無事、日亞学院に運び込まれた。

船積輸送、通関手続等にご協力支援下さったジャパンエキスプレス㈱、国際協力事業団、大阪商船三井船舶㈱、外務省、在ア日本大使館の関係皆様に紙面を借り心から厚く御礼申し上げます。

なお、同時にアルゼンチン友の会(AADLA-駐日アルゼンチン大使館の後援で社会福祉活動を行っている)が収集した中古医療機器、ベッド、車椅子等をアルゼンチン医療機関に寄贈するため、同会より輸送等につき協力依頼があり、上記船で輸送(海上運賃無料)した事を付言します。

事務局からのお願い

「個人正会員および個人賛助会員」募集

個人会員制度の概要は次のとおりです。

①☆正会員(定款上総会の構成員。議決権有り) 年会費 ¥10,000

☆賛助会員(定款上総会には非構成員。議決権なし)。

その他は原則として正会員に準ずる) 年会費 ¥ 5,000

②会報:当協会の発行する「会報」を年4回お届け(無料)することにより、日ア間の最新情報を政治、経済、文化などに亘って提供します。

③文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加(実費徴収)いただきます。

④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。

事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

⑤郵便局振込口座 00120-6-581381 ⑥住友銀行 日比谷支店

普通 215-99570

平成10年度当協会の第42回通常総会報告

前号でご案内の通り、平成10年度当協会の第42回総会（兼理事会）が平成10年5月21日（木）午後2時半より、日比谷ダイビル4階会議室において開催された。出席48名（他に委任出席45名）が参集し、前年度決算報告、本年度事業計画及び同予算案等が原案の通り承認決定されました。

同総会において、河崎勲氏が米国より帰国されたのを機会に理事に復帰を承認されました。

なお、同席上で土屋名誉顧問（現埼玉県知事）よりの祝電が披露されました。又、議案審議に先だって、斎藤英四郎会長より、本年は日ア修好100周年で祝賀式典や各種イベント行なわれるので会員各位のご協力及びご支援をお願いしたい旨のご挨拶がありました。

平成10年度の役員、理事等は次のとおりです。（敬称略・順不同）

会長	斎藤 英四郎	新日本製鉄(株) 相談役名誉会長
副会長	近藤 四郎	元 駐アルゼンチン大使
	近藤 鎮雄	大阪商船三井船舶(株) 相談役
	藤本 芳男	財団法人世界の動き社 理事長
専務理事	野村 秀治	元 ロサンゼルス市港湾局 在日代表
理事	高垣 佑	(株)東京三菱銀行 代表取締役会長
	宮地 隆夫	三井物産(株) 業務部国際業務室長
	風間 孝晴	元 國際協力事業団 理事
	山川 尚義	三菱商事(株) 米欧業務室長
	桑田 芳郎	(株)日立製作所 専務取締役
	堀部 雅夫	(株)東芝 総務部 國際関係主監
	山根 正彦	住友商事(株) 対外企画部 部長
	渡邊 晴郎	丸紅(株) 常任顧問
	高野 尚彦	伊藤忠商事(株) 顧問
	近藤 尚武	日本郵船(株) 取締役
	今永 文男	日本水産(株) 相談役
	大隈 信幸	日本ウルグアイ協会 会長
	佐藤 和男	大阪商船三井船舶(株) 常務取締役
	上田 将雄	川崎重工業(株) 相談役
	西岡 稔	元 ダイビル(株) 専務取締役
	稲積 紀樹	日本電気(株) 取締役支配人
	土屋 桃子	ジャパン・アート・ルネッサンス協会理事長

山 本 學	上野学園大学教授
山 下 洋二郎	住友海上火災保険(株) 専務取締役
斎 木 茂 治	大来財団日本評議委員会 事務局長
小 宅 庸 夫	中部電力(株) 顧問
河 崎 勲	元 テレビ・ジャパン・アメリカ社長
監 事 塩 見 憲 一	(株)東京三菱銀行 中南米部長
安 田 直 弘	(株)安田 代表取締役
名譽顧問 土 屋 義 彦	埼玉県知事
顧 問 薄 井 康 夫	元 国際コンテナ輸送(株) 社長

謹呈：日ア協会特製：修好100周年記念2色ボールペン

日本アルゼンチン修好100周年を記念して、当協会は両国国旗の色から採ったブルーと赤の2色のボールペンを作製しました。会員各位には、本会報とともにお送りいたします。

なお、アルゼンチン関係の各種会合の引き出物や記念品としてご入用の向きは、事務局にお申し出で下さい。実費（送料本人負担）でお預けいたします。

さらに盛り上る日ア修好100周年記念行事

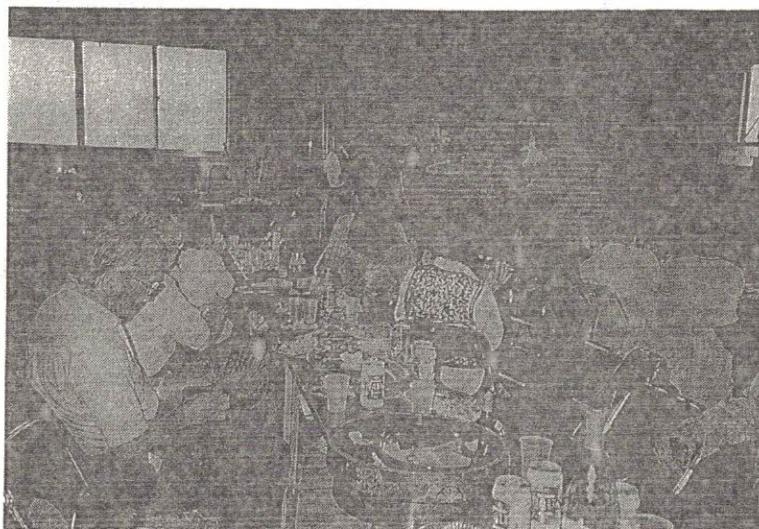
□ NHK 春のふれあい広場における国際交流

5月4、5の両日NHKサービスセンター主催により、W杯で対戦するアルゼンチン、クロアチア、ジャマイカのPRテントが設置され、夫々各自紹介資料の展示及び配布、物産展、音楽演奏会、子供のPK合戦等がNHK広場で開催され、6万人が来訪する盛況であった。アルゼンチン・テントは2箇所に設置され、当協会と日ア修好100周年記念事業組織委員会の看板を立て、片やアルゼンチン・ワインとエンバナダの看板を掲げ、夫々即売を行ない行列が出るほど好評であった。野外ステージでは、トリオ・アミゴスがタンゴ、フォルクローレを演奏し聴衆を魅了した。

□第3回安田ペヘレイ養殖場見学ツアー

5月16日（土）当協会員等60余人が埼玉県の安田ペヘレイ養殖場訪れ、安田代表（当協会監事）の説明を聞きながら水槽の中で泳いでいる稚魚20万匹を見学した。

昼食会場では、ペヘレイの握り寿司、天ぷら、とアサード、更にワイン等の飲み食い放題で、参加者一同ご満悦であった。食後、カンデラリアの高野太郎トリオがガウチョ衣装で100周年記念歌「微笑む二つの太陽」及びタンゴ、フォルクローレを演奏し、飛び入りでブエノス生れの二世歌手谷沢豪がポップスを歌い、最後に「花祭り」が演奏されると一同輪になって踊り、楽しい一時を過ごし、安田代表始め㈱安田社員等の皆様に感謝しながら今年もまた名残惜しく帰途についた。



□長田小学校、大使夫妻を迎えて盛大なアルゼンチン友好の日

6月6日（土）境町立長田小学校「第10回アルゼンチン友好の日」の集いが盛大に催された。

今年は日ア修好100周年であるため、サンチス・ムニヨス大使夫妻、ゴメス参事官、協会からは藤本副会長、野村専務理事、河崎理事、渡部事務局長が参加した。

両国国歌斉唱のあと、橋本境町町長、石川校長の歓迎の挨拶、大使から子供たちへ「6月14日のアルゼンチン・日本戦が再び、W杯の決勝でも顔合せができる事を願っている」とのメッセージのあとサッカーボール5個と、大使の近著「アルゼンチン日本交流史」（西語）が生徒に贈られた。

全校生徒による「さくらさくら」（大正琴とパーカッション伴奏）と名物のスペイン語による「カミニート」の斉唱。ついで著名なピアニストである大使夫人ポリー・フェルマンさんは、「アルゼンチン舞曲」（ヒナステーラ曲）より2曲とアンコールに

「さくら変奏曲」(平井康三郎曲)のピアノ演奏で応え、割れんばかりの拍手に包まれた。

生徒より花束を贈られた大使夫妻は、手作りの両国国旗をうち振る通路一杯の生徒達と握手を交わしながら、別れを惜しんだ。この様子は、NHKテレビで放映され、朝日、毎日、サンケイ、東京、茨城の各新聞に掲載された。

□大阪市とブエノスアイレス市が「友好協力都市提携」に調印

6月1日大阪市役所で、磯村大阪市長とエンリケ・オリペーラ ブエノスアイレス副市長との間で「友好協力都市提携」を調印した。

この提携は、両市が抱える共通する課題につき情報交換し、共同で各種施策に取り組む事等を目的として、都市間交流を行なうもので、アルゼンチンの都市とのこの種提携はブエノスアイレス市が初めてである。

なお、同調印式には、アルゼンチン側からはロバーヨ 在京大使館公使、また、日ア修好100周年記念事業組織委員会を代表して、藤本当協会副会长などが出席した。

調印式のあと、市迎賓館で市長主催の歓迎夕食会があり、ア国代表は感銘を受けている。

□日ア修好100周年にっぽん丸船上祝賀パーティ開催

6月9日ブエノスアイレス港に停泊中の世界一周クルーズ船にっぽん丸(大阪商船三井船舶㈱所有)の船上ドルフィン・ホールにおいて在亞日本商工会議所／日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会の共催で両国修好100周年の記念祝賀パーティが盛大に開催された。

列席者は総勢160名、ア国政府関係者、日本大使館関係者、日系企業の駐在員、日系1世、2世の方々が顔をそろえた。主催者を代表して、豊田在亞日本商工会議所会頭、宮崎大阪商船三井船舶㈱専務が挨拶、また、来賓を代表して、アルチョウロン日ア修好100周年亞国国家委員会名誉委員、木島駐ア日本大使がスピーチ、友好ムードが盛り上がったところで、鏡割りを行ないパーティはクライマックスに達し、出席者は日本料理を楽しんだ。

この船上パーティはアルゼンチン側100周年記念行事の一大イベントと位置づけられているもので、にっぽん丸の船上でかかる行事が開催でき、私もそれに参加できたことは非常な喜びでした。

(若岡邦昭 日本アルゼンチン100周年記念事業組織委員会事務局次長(大阪商船三井船舶㈱より出向))

文化行事

【□】は当協会員特別割引

□アルゼンチン・ミュージック・フェスティバル

「タンゴ・シーン」

日時・会場：8月4日（火）東京新宿厚生年金会館大ホール 19:00開演

5日（水）大阪厚生年金会館中ホール 19:00開演

6日（木）名古屋愛知県芸術劇場大ホール 19:00開演

出 演：スサーナ・リナルディ・グループ、イネス・リナルディ

「フォルクローレ・シーン」

日時・会場：8月3日（月）東京新宿厚生年金会館大ホール 19:00開演

5日（水）京都会館第2ホール 19:00開演

7日（金）名古屋市少年文化センター 18:45開演

出 演：リト・ビターレ・トリオ、フリア・センコ、トリオ・カンタウトレス

「東京公演」

入場料：前売 S席7,000円【□5,000】、A席5,000円

交 通：地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 下車徒歩5分

主 催：日本ラテンアメリカ文化交流協会（帆足まり子会長 当協会員）

後 援：アルゼンチン共和国大使館、(社)日本アルゼンチン協会等

連絡先：日本ラテンアメリカ文化交流協会 03-3338-3864（渡部、当協会員）

□「ミサ・クリオージャ」アルゼンチン・フォルクローレの重鎮

アリエル・ラミーレス本邦初公演

日 時：8月7日（金） 19:00開演

会 場：サントリーホール 大ホール

演 奏：総指揮／ピアノ アリエル・ラミーレス&楽団、歌 ハビエル・ロドリゲス、

T.F.C合唱団（混声120名）、指揮 辻 正行

第1部：ミサ・クリオージャ、アルゼンチンのクリスマス

世界中で喝采を受けており、大地から沸きあがるフォルクローレのリズムと格調あるミサ曲大合唱の融合は最高の評価がなされている。

第2部：コンドルは飛んでゆく、ツクマンの月、花まつり など

入場料：S席10,000円、A席8,500円、B席7,000円、C席5,000円

【□9,000円、 7,600円、 6,300円、 4,500円】

交 通：銀座線、南北線、溜池山王駅 13番出口

主 催：連絡先：ミサ・クリオージャ事務局 03-3271-2170 (マトバ、当協会員)

○ポリーフェルマン（駐日アルゼンチン大使夫人）のピアノ・コンサート

日 時：9月7日（月）19:00開演

会 場：フイリア・ホール（横浜市青葉区青葉台東急百貨店5階）

入場料：5,000円（全指定席）

交 通：田園都市線・半蔵門線 青葉台駅 下車徒歩1分

主 催：問合せ：(財) 民生音楽協会 03-5362-3410 (口中、清水)

□ブエノス・アイレス NEO TANGO（古瀬陽子里帰り公演）

日 時：9月16日（水）19:00開演

会 場：浜離宮朝日ホール

入場料：S席 6,500円、A席 5,500円（税込）

【 6,000円 5,000円】

出 演：ダンス エフライン&ヨーコ 他2組、歌 リリアーナ・バリオス
演奏 ブエノス・アイレス・ネオタンゴ五重奏団

交 通：日比谷線 東銀座駅又は築地駅 下車徒歩8分

主 催：ブエノス・アイレス・ネオタンゴ'98日本公演実行委員会
0573-65-2152 (古瀬和寛、真砂子、当協会員)

連絡先：株マルチ・エンターテイメント・ワーク・ショップ

FAX 3465-3950、 3481-1231 (伊藤)

○ブエノスアイレスの夏～VERANO PORTEÑO

日 時：9月21日（月）19:00開演

会 場：東京厚生年金会館

入場料：全席指定 S席 5,000円、A席 4,000円、B席 3,000円

【 4,500円、 3,600円、 2,700円】

交 通：丸ノ内線 新宿三丁目駅 下車

出 演：小松亮太 (ワドネソ)、フェルナンド・スアレス・バス (ヴァイリソ)、
オラシオ・マルピチーノ (オーラ)、パブロ・シーグレル (ビラ)、他

主 催：問合せ先：コンサートイマジン 03-3235-3777 (佐藤)

□鍵盤の魔術師エンリケ・クッティーニのタンゴ演奏

日時・場所：10月 4日（日） 14:00と18:30 横浜関内ホール

10月11日（日） 14:00と18:30 練馬文化センター

入 場 料 : 各会場とも S席 4,000円 A席 3,000円 【□ 3,500円、2,500円】
連 絡 先 : 国際文化交流協会 ☎ 03 - 3726 - 4950 (原田直二)

□華麗なるタンゴ～池田光夫タンゴ演奏会

日 時 : 10月2日 (金) 18:30開演
会 場 : 川崎市麻生区市民館大ホール (麻生文化センター内)
出 演 : 演奏 池田光夫とロス・アミーゴス、ダンス シンゴ&アスカ
司会 志摩由起夫 ゲスト 中島啓江
入場料 : 4,000円 【□ 3,600円】全指定席
交 通 : 小田急線 新百合ヶ丘駅前 044 - 951 - 1300
主 催 : 問合せ先 : 日本タンゴ演奏家協会 03-3489-2519 (池田光夫 当協会員)
後 援 : アルゼンチン共和国大使館、(社) 日本アルゼンチン協会

□タンゴみゅーじかる VOL 2

日 時 : 10月9日 (金) 18:30開演
会 場 : シアターVアカサカ (03 - 3583 - 6040)
出 演 : 京谷弘司クアルテート・タンゴバンド
歌と踊り 清水百合 (当協会員)、ジョルジュ高橋とTANGO C
入場料 : 前売 S席 5,300円、A席 5,000円、当日 + 500円
【□ S 4,800円、A 4,500円】
交 通 : 千代田線 赤坂駅下車 徒歩4分
主 催 : 連絡先 : HYG企画 ☎ 03 - 3408 - 8779 (山田)
後 援 : アルゼンチン共和国大使館、(社) 日本アルゼンチン協会

□情熱のTANGOとやすらぎの日本の抒情歌ー小原みなみ

日 時 : 11月10日 (火) 19:00開演
会 場 : みなとみらいホール (045 - 682 - 2020)
出 演 : 歌 小原みなみ、演奏 岡本 昭とタンギシモ
入場料 : 前売 5,000円 【自由席、□ 4,500円】
交 通 : JR京浜東北線、東横線、市営地下鉄線 桜木町駅下車
(動く歩道からランドマークプラザ、クイーンズモール経由で徒歩約12分)
主 催 : 申込先 : オフィス小原 045 - 712 - 0066 (小原 当協会員)
後 援 : 横浜市、アルゼンチン共和国大使館、(社) 日本アルゼンチン協会など

(註 : □印は日本アルゼンチン修好100周年記念事業)

お 知 ら せ

□大恐竜展

日 時：7月11日（土）～10月11日（日） 09:00～16:00

会 場：国立科学博物館（上野公園）

入場料：大人1,300円 小、中、高生600円（夫々前売券200円引き）

主 催：国立科学博物館、読売新聞社

後 援：外務省、文部省、アルゼンチン共和国外務省等

連絡先：大恐竜展事務局 03-5685-6283

□コスモ石油「ラグビーチャレンジマッチ'98」

日 時：第1戦 9月11日（金） 19:00 キックオフ

第2戦 9月15日（火・祝） 14:00 キックオフ

会 場：第1戦 長居陸上競技場（大阪）

第2戦 秩父宮ラグビー場（東京）

対 戰：第1戦 日本選抜対アルゼンチン代表

第2戦 日本代表対アルゼンチン代表

入場料：メイン指定席3,000円、A自由席 2,000円、B自由席 1,000円

主 催：問合せ：（財）日本ラグビーフットボール協会 03-3401-3321

特別協賛：コスモ石油㈱

後 援：朝日テレビ、朝日新聞社、アルゼンチン共和国大使館、

日ア修好100周年記念事業組織委員会

◎アルゼンチン留学一ブエノスアイレス大学スタディー・センターへ

国際教育交換協議会（Council on International Educational Exchange, 本部はニューヨーク）日本代表部が、ブエノス・アイレスの大学キャンパス（Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales 及び Universidad de Buenos Aires）内に設置されているスタディーセンターへの留学希望者を募集しています。

1 期間および費用：

1998年 7月下旬～12月中旬（20週間） \$ 8,295 ドル

1999年 3月中旬～7月下旬（20週間） \$ 8,295 ドル

1998-99年 7月下旬～7月下旬（52週間） \$ 14,725 ドル

2 使用言語：スペイン語 3 研修分野：社会学、人文科学

4 滞在先：ホームステイまたは学生寮

5 費用に含まれるもの：

授業料、オリエンテーション、宿泊費（朝食付き）、文化活動、エクスカーション、及びフィールド・トリップ、保険など

連絡先：国際教育交換協議会日本代表部 ☎ 03-5467-5503（野口）

◎ビデオ「エバ・ペロン～エビータ」の真実（4月24日発売）

（1966年／アルゼンチン映画／カラー／115分／日本語字幕入）

内 容：アルゼンチン映画の最高スタッフが制作した本作品は、権力闘争、軍事クーデターという激動のアルゼンチンを背景に、ペロン大統領と共に、貧しい労働者階級の為の救済に献身し、弱冠33才で他界したエバ・ペロン（1919～52）の最後の2年間を史実にそって描いている。

一般価格：4,095円（送料別）

会員特価：3,500円（送料込、郵便書留にて「エバ・ペロン」係と明記）

連絡先：（株）ジェイ・ブイ・ディー 03-3409-9920（藤川 当協会員）

〒150-0002 渋谷区渋谷1-5-5 ローゼ渋谷ビル

□名著「アルゼンチン海軍軍人が見た日本海海戦」が出版へ

日本海海戦の史実本としては、ベストセラー「坂の上の雲」（司馬遼太郎）を上回るものと関係者の間で評価されている名著が、やっと出版されることになった。

93年前の1905（明治38）年の日本海海戦で、アルゼンチンから譲渡された新鋭艦「日進」に座乗したアルゼンチン海軍のドメック・ガルシア中佐（当時）の観戦記は、先般海上自衛隊により翻訳され、部内教育資料として印刷された。当協会としては、この名著を一般にも公開出版できないものかと各方面に折衝中のところ、ようやく見通しがつき11月ごろに出版の運びとなった。

なお、ガルシア中佐はのちにアルゼンチンの海軍大臣、退役後は、「アルゼンチン日本協会」の初代会長を歴任された。日ア修好100周年の年に幻の名著が、わが国で日の目を見るのも何かの因縁かも。

◎当協会の会費納入について

平成10年度会費（法人会費、個人正会員、賛助会員）につきましては、既に請求書を夫々の会員各位宛に送付させて頂きましたので、未納の方は宜しくお願ひ申し上げます。

人 事 往 来

1 来 日

グアダーニ工業・貿易・鉱業長官（4月23日－29日）
カセレス経済公共事業省副大臣（6月29日－7月1日）

2 訪 ア

猪野	徳島県副知事	5月28日－31日
増田	岩手県知事	6月 1日－ 3日
梶原	岐阜県知事	6月 3日－ 5日
平井	香川県知事	6月12日－14日
橋本	高知県知事	6月15日－18日
清浦	長崎県知事	6月18日－20日
小川	新潟県知事	6月22日－24日
小菅	栃木県副知事	6月25日－26日
荻原	外務省中南米局中南米第一課事務官	6月6日－11日
宮崎	大阪商船三井船舶(株)専務取締役	6月7日－11日
斎木	日ア修好100周年記念事業組織委員会事務局長	6月6日-15日(当協会員)
若岡	〃 次長	6月6日-12日
荻原	〃 コーディネーター	6月6日-12日(当協会員)

あ と が き

◎博物学者・文学作家ウイリアム・ハドソンと日本との 関係（最終回）

は、紙面の都合で次号に掲載いたしますので、ご了承お願い申し上げます。

◎次号（22号）は、10月中旬発行予定。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしてい ます。